



実は読めていない

合格の知らせが届き始めています。理学療法士、看護師などの医療系、そして経済学部や家政学部さらに海洋建築学科など大学の指定校推薦・公募推薦入試も最近では多岐にわたっています。高校になってからも塾に通い続けて頑張ってきた人もいれば、卒業後も折に触れ訪ねて来てくれて報告してくれる人たちもいます。

さて現在の中3が大学入試を迎える2020年度から入試方法が大幅に変更となることはご存知かと思えます。大学入試センター試験に代わり導入される「大学入学共通テスト」では英語が現行の「読む・聞く」に「話す・書く」を加えた4技能を評価することになり、英検などの民間のテストに置き換わる可能性があります。また国語・数学ではマーク式だけでなく記述問題が加わり、表現する力も問われそうです。その流れは当然、高校入試にも影響し、最近増えてきた「活用型」の問題や「記述・説明重視型」の問題、さらには「原理の理解と仮説検証型思考」を問う問題が主流となってきそうです。現小6が千葉県公立高校を受験する時には前後期の2回受験ではなく1回の入試になることもほぼ本決まりです。

それではどんな勉強の仕方をしていけばいいのでしょうか？ 応用・活用の問題に何とか食らいついていく勉強が必要なののでしょうか？ 実はその前にやっておくべきこと、身につけておくことがあります。「基礎基本を徹底したうえで読み落としをせず理解し、それを的確に表現する」というスキルです。以前も紹介した国立情報学研究所の新井教授のリーディングスキルテスト研究の追跡調査結果が先日発表されていましたが、教科書に載っている表を見て短文の質問に答える問題の中学生正答率が62%という例がありました。落ち着いて読めばだれでもわかる質問です。しかし、実は読めていない人が4割近くもいる。この塾の授業中でも「先生、わかんない！」と言って数秒後に「あっ、何でもない。よく読んだらわかった。」という場面がよくあります。この冬の課題は“読み飛ばし・うわべだけの理解・つながりや原理を考えない丸暗記”をなくしていくことです。さあ方針は決まりました、後は実行するだけ！